

# 2009年タコ

単位：数量，1000トン、価格，円/kg

年	数 量				価 格				輸 入 国									
	漁獲	産地	輸入	東京	消費支出 生(万円)	在庫	産地	輸入	東京	消費支出 生(円)	モロ ッコ	モーリ タニア	セネ ガル	タイ	スベ イン	ベト ナム	中 国	メキ シコ
20	48.8	5.9	44.7	8.8	692	18.5	416	763	975	1298	10.9	12.6	1.7	1.2	2.7	5.5	6.7	1.1
21	45.6	4.8	56.2	13.2	845	19.9	361	495	656	1398	13.8	26.5	1.1	1.4	3.0	3.7	5.5	0.1
%	93	81	126	150	122	107	87	65	67	108	127	210	67	120	115	68	83	8

## 輸 入 の 動 向

21年の輸入量は、5.6万トンで前年上回った。これは主力の西アフリカ物（モーリタニア、モロッコ）の増加を反映したものである。

本年の西アフリカでの漁は、モロッコでのトロールの漁獲枠が12,000トンで前年の16,000トンをやや下回った。夏ダコ漁は船凍、陸凍とも5、6月が休漁で7月1日解禁、9月末までの期間であった。トロールが7番主体の漁であったが、漁的には余りみるべきものは少なかったモロッコの冬ダコ漁は1月から始まり、2-5番、6-8番の半々の組成で始まり成長が早かったのが特徴で総じて6番が多かった。漁は並み漁であった。

モーリタニアの夏タコ漁は壺漁が5-6月15日まで休漁、トロール船凍と氷蔵船は5、6月の2ヶ月の休漁となったが、現地での4月の漁も不振であったため実質的には長期休漁であった。漁は壺漁が開始の10日間は極めて好調で1日100-50トンの漁獲、サイズは漁当初は中間サイズの5、6、4番で小型が少なかった。冬ダコ漁は11月壺が解禁になったが、前年の半分の漁獲で低調、しかも魚価が安いため出漁隻数の大幅減少で不漁は決定的の中、22年度を迎えることになった。

市況は、休漁措置、漁獲枠の設定（TACの設定）、サイズ規制等も恒常的に続いているが、モーリタニアの夏漁が比較的好調であったことと、前年後半のリーマンショックの後遺症もあって、現地価格は弱含んだ。したがって、輸入価格、消費地価格とも前年を下回った。

大型サイズを始めとしてEU諸国との競合も多いが、本年は依然現地在庫も多く、モーリタニア壺漁の好調さもあって、対日本向けオプファーも引続き多かった。

輸入国は、昨年が続いてモーリタニアが47%で前年(28%)をかなり上回り、モロッコも25%（前年24%）と若干上回った。中国が10%前年（15%）を下回った。続いて、ベトナム、スペイン、タイとなっており、メキシコは少なかった。

輸入価格は、656円と買付価格の下落を受けて前年（763円）をかなり下回った。

また本年も、マダコ、ミズダコ、ヤナギタコ等、国内外のタコ類の供給があり、国内需要に対応し、多様化しているが、末端ではマダコと水、ヤナギを扱う業者と2極化しているのは変化がない。

## 在 庫 量

本年の平均在庫量は、2万トンと前年（1.9万トン）をやや上回った。

越年在庫は2.4万トンで前年（1.8万トン）を上回り、近年ではかなり多い在庫となった。来年は消費マーケットからみるとやや重い在庫でのスタートとなった。

## 消費地入荷量と価格

21年の東京の入荷量は、1.3万トンで輸入量が多かったこととそれに伴い価格の下落も目立ち前年（0.9万トン）を大幅に上回り、消費地での取扱いも久しぶりに大きく伸びた。

したがって本年は末端マーケットでの特売も多くみられ、マーケットの縮小に歯止めがかかった。家庭消費支出は、単価安の影響もあって数量、金額ともに伸び、特に数量は20%以上の伸びを示した。

価格は、656円で前年（975円）を下回り、輸入価格の下落を反映した格好となった。